

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292800016		
法人名	特定非営利活動法人 EVERGREENCLUB		
事業所名	グループホーム エバーグリーンクラブ		
所在地	千葉県鴨川市太海2175番地1		
自己評価作成日	令和3年5月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市大和2-12-10 ロフ亭番館2階		
訪問調査日	令和 3年	5月	18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・[愛と良心に基づく高い志を抱いて地域社会に貢献する。]という理念のもと、[支えあひひとつの家族のように]モットーに日々支援しています。明るいイメージを表現した洋風の建物、窓辺や玄関の花々が見る人の心を和ませている。鴨川国保病院と連携が強化されており、また亀田総合病院が至近にありい両面での安心度が高い。太海海岸が近くにあり海洋療法を意識した散歩に性を出している。食事は材料を吟味し添加物を使用せず鯉節や昆布の日本素材を用い、手作りこだわっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

独自の理念がある。「愛と良心に基づく高い志を抱いて地域社会に貢献する」職員は理解し実践につなげている。施設はペンション風の白い建物でベランダには赤いゼラニウムが咲いている。コロナ予防で外出は出来ないが海辺を散歩する事は出来る。運営推進会議はコロナであまり出来ていないが、より良い会議を目指し利用者が地域で暮らし続ける為にも地域や人々との関わりを強化し、協力関係を大切に考えている。医療は充実しており、24時間体制で訪問診療・訪問看護、37.5度ルールを作り、利用者の健康管理に心がけ安心である。系列の看護師が勉強会を開き、職員のレベルアップに努めている。避難訓練を定期的に行い、災害に備えている。コロナ感染対策(消毒・マスク・透明フェンス)を強化し、利用者が安全に過ごせるように心掛けている。エバーグリーン通信(春号)に管理者の想いが述べられ、コロナ禍の中でも利用者同士の寛ぐ様子が伝わる。食事は楽しみの一つで理事長が腕を振るい、バランスの取れた食事が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲げ入居案内にも掲載している。管理者は朝礼やミーティング時に必ず出席者と理念の唱和を行い、職員への浸透を図っている。	愛を良心に基づく高い志を抱いて、地域社会に貢献する独自の理念を作り上げている。管理者、職員は理念を共有し、理解に努め、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭り等地域行事に参加したり散歩のときに近所の方との挨拶や会話などの機会を作っている。また、小学校の校外学習受け入れや町内会に加入し交流を保っている。	地域行事に参加する、散歩の際に挨拶を交わす、小学校の生徒さんの校外学習の受け入れ、職場体験をさせている。今はコロナ感染で交流が少ないが地域で必要とされる活動や役割を担っていきたいと考えている。	今も地域とのつながりはあるが、なおいっそうの協力関係を作ってほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ感染予防のため、入居相談や介護問題は電話にての対応が主となってしまっていますが、ご家族の苦労等を入居に至らなくとも真摯に傾聴させていただいて、アドバイス等させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーはご利用者家族、住民代表、市の職員などバランスよく構成されている。会議内容は双方向の対話により参加者から意見を聞いている。外部評価の報告をしている。	運営推進会議には、利用者家族、住民代表、市の職員の参加で行われ、現状報告や活動報告、外部評価の結果が話されている。参加者からの意見や質問を頂いている。現在はコロナ感染で会議も見送りになる状況であり思うように会議が出来ていない。内容の濃い会議を目指している	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	目標達成計画のモニター時に市職員へ外部評価の報告時に運営の実情を情報継続している。日常の相談事や認定更新時にご利用者の様子を情報継続している。	市とは会議の参加や認定更新時、外部評価の報告など施設の様子を共有し、課題解決に向け連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の現在、系列の特別養護老人ホーム南小町にナースより場面に沿った対応の仕方等研修を受け、月一度にユニット会議で職員一同に周知実践している。	系列の施設から看護師を招き、身体拘束の研修を行っている。対応の仕方を学ぶユニット会議で実践する。利用者の安全面を配慮し自由な暮らしが出来るように共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で定期的にケアカンファレンスを行い虐待防止に努めている。各階のユニット長がケアマネと2名で常に入居や職員の動向に注意を向けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、コロナ感染予防のため、研修会に参加できず過去の研修を参考に権利擁護に必要とされるご利用者に対しては、鴨川市役所、社会福祉協議会と連携、いつでも支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には必ず管理者を含め2名の職員にて口頭と文書にて十分な説明を行って本人、ご家族に納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に訪問しやすい、意見しやすい環境や雰囲気づくりを心掛けるとともに、日頃からの対話やコミュニケーションを大切にし、密な関係性を形成するよう努めている。※現在はコロナ感染予防の為電話での対応をしています。	利用者、家族とは訪問時には気軽に話し合える関係作り努めている、今はコロナ感染で訪問は控えているが手紙や電話対応のみになっている。施設での面会ができない為ガラス越しに家族の顔が見れることができる。利用者、家族の思いを叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員全体ミーティング時に職員より、意見や提案がないか確認している。また年に1回、管理者と各職員の面談を設けて、一人ひとりの考えを確認し、可能なことから業務改善に取り組むようにしている。	職員は全体ミーティングで意見、気づき、アイデアを話すことができる。管理者は年に1回は個人面談を行い、要望や、意見を聞き、業務改善に心掛けている。内部、外部の研修の機会を作り、職員の質の向上に向け取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自発的且つ能動的な少雨業意識を抱けるような職場環境づくりを目指している。勤務状況をつ博するとともに、事業所内の行事や会議、内外の研修会の出席意欲等を確認して、給与の支給額に反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談を反映して、各職員の悩みや問題点を把握し、ともに解決できるよう道筋や課題を提示した。また、一人ひとりのレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同郡市内のグループホーム間において、集う機会を定期的に設け、意見交換している。そこから得た他事業所の取り組みや工夫を事業所内に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の居住場所に訪問し、ご本人の不安や要望等をお聞きするようにしている。その際、入居時に安心して頂くようホーム長・ケアマネ・担当職員等で訪問することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族と面談し、入居に関して不安なこと、要望等を聴く機会を設けている。コロナ感染予防を尊重して頂いたご家族には施設内見学をして頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のダナン海で必要と思われる福祉用具等の選択を介護ショップの担当者を交えご家族と選定する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の興味のあることや出来ることを把握し、一緒に行う事でご本人に寄り添い良い関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナ感染予防のため、施設内で面会をご遠慮いただいております。手紙、電話、での対応としています。施設からご家族へご本人の状況を月に1度報告しており、必要に応じて施設から電話連絡をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	予約の電話を頂き、コロナ感染予防を尊重して頂き面会の受け入れを行っているが、現在コロナ感染予防のため、地域行事も中止となっており、家族や知人の方の面会受け入れにも神経質になっている状況。	コロナ感染で面会が出来ない状況であり、家族には利用者の様子をお手紙で月に1度お知らせしている。何かあれば電話で対応している。利用者には少しでも良い思いをさせたいと管理者は考えており、支援に努めている。利用者同士は良い関係が出来ていえる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を見極め、職員が間に立ち声掛け等をする。現在、食事やおやつ等ご利用者同士で声掛け車椅子の場所を作ってくれたり良い関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用がs湯量しても転院先の病院等へ面会に出向いたり、ご家族とは地域住民の一人として関係の継続に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族との面談やから情報を収集し希望や意向の把握に努めている。ご本人と個別に会話する次官江尾作り、出来るだけ希望に沿った対応を心掛けている。	利用者、お亜族、関係者から利用者の情報を得るように心がけている。個別に会話し、利用者独自の生活歴や個性を把握するように心がけている。責任担当制を導入し、担当職員が利用者の状態変化に留意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族との面談や居宅時のケアマネージャーやケースワーカーから生活歴やサービス利用状況等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日に二回(朝、夕)バイタル測定を実施体調管理に努めている。また、責任担当制を導入し担当職員が個別に心身機能の状態変化に留意し、一人ひとりの現状の把握に努めている。除隊変化が見られたらカンファレンスの開催、他職員に周知している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが主体となり、本人、家族、管理者、担当職員、訪問看護師、福祉用具専門相談員等ご本人に関係する人の意見を取り入れ介護計画を作成、定期的モニタリングを開催している。	本人、家族、よく知る関係者から意見や気づきを聞き、話し合った結果を元に介護計画を作成している。職員は利用者の様子を記録に残し共有している。モニタリングを行い、変化が生じた時にはケアマネに報告し、見直しを行っている。ユニット会議で再検している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア内容を入居者別に記録し、業務引継ぎ時に申し送り、職員間で共有している。特化したへんかがある時はケアマネに報告、介護計画の見直しをする。月一回開催しているユニットが会議にて再検討、家族に報告、介護計画の変更をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、コロナ感染予防のため急遽の外出等は内容により制限をかけている。※すべての人がワクチンを受け感染が防げるようになったら施設内で食事を一緒に摂って頂くことも外出制限も撤廃したいと思っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームより徒歩5～10分で太海海岸があり、それぞれの身体状況に合わせてウォーキングを実施。その間にご近所の方とお会いしますが、今はコロナ感染が怖いのでお互い挨拶のみが寂しいです		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時、ご家族に確認後主治医受診。家族が同行できないときは職員が同行している。	鴨川市立国保病院と24時間体制で月1回訪問診療、月2回の訪問看護実施。職員は利用者の健康管理を行、変化が見られた場合は看護師に報告し、医療へ繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	等施設は看護職がおらず、月に2回、鴨川市立国保病院訪問看護を利用、普段からケア記録を残し、精神面、身体機能に変化が認められた場合看護師に相談、報告を行い場合によっては施設に訪問してもらっている。その際は必ずご家族に連絡し、報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはホームでの日常生活状況を提供、入院中は定期的に面会に域現状把握に努める。現在コロナ感染の為、訪院できず入院先のケースワーカーと連絡のみ行っている。※現在入院者はおりません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化する前に日々の状態を家族へ報告、説明を行い、連携医療機関、訪問看護師へ相談、支持を仰ぎ主治医へ受診するようにしている。終末期を迎える前に主治医の方針を確認し、連携医療機関のバックアップの元、出来るだけ本人、ご家族の以降に沿うように努力している。	利用者の日々の様子を確認し、重症化する前に家族と話し合い方針を決め訪問看護や連携医療機関に相談し、指示を仰ぎ支援に繋げている。利用者の体温が37.0℃以上ある場合は医療関係と連携している。緊急時のために研修を行い備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご縁、窒息、急変時に備えて、定期的に系列施設の看護師より研修を受けている。緊急時はマニュアルに沿って対応出来るように定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを整備し災害時に備えて定期的に避難訓練を行い、ミーティングの織には核ご利用者の避難方法等を確認している。ご近所の方々とも普段から関係性を大切にしており、協力をお願いしている。地元の消防団との交流も図って災害時における協力を得られるよう努めている。	定期的に避難訓練を実施している。地域の人々や消防団との交流し、協力関係を作っている。地震や津波(海が近い)避難対策の強化、火災に注意。鍵の管理を徹底し、外に逃げる。いざというときに備蓄品を備えている。	災害に対しての避難訓練を実施し、いざという時の為に普段から心掛けてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	”ご利用者と同じ目線”で会話をするを方針として実践できているか、日々確認している。行き届かない対応がみられた場合にはその都度管理者、ユニット長が注意し、入居者の尊厳を壊さないように努力している。	言葉遣いに注意している。利用者の誇りやプライバシーを傷つけない。全体会議で話し合っている。責任ある管理を徹底し、支援に努めている。	利用者の尊厳を守り、管理を徹底することを望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からご利用者が自分の思いを話せるような雰囲気づくりを心掛けている。自己決定ができないご利用者様にはその都度説明、わかっているように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけその人のペースでと思っているが、そう出来ない時でも必ずわかって頂けるまで説明し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者のこだわりを否定するような支援はしていない。男性入居者の場合自身自身の電気カミソリでひげを剃るように働きかけている。女性入居者には朝、居室内で髪を整えてから食堂へ行かれるよう促しを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や片付けは職員と一緒にやっている。※現在コロナ感染予防の為食事中の会話が禁止されている。	食事は喜びと楽しみ。毎日の料理が手作りで旬の食材を使用している。季節を感じる事ができる。バランスの良い食事が提供される。鯉節でだしを取り、手間かけた料理になっている。利用者は個々に合わせた配膳や後片付けを行う。食事の携帯はミキサー食、粥食、刻み食などここに合わせている。接種状況を確認し個々の支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量と水分量はその都度把握し、摂取状況に合わせて補うように支援している。食事形態も体調や身体状況に合わせて、無理なく摂取できるように各自、ミキサー食、粥食、刻み食等配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殆どの利用者が毎食後の歯磨きを一部介助にて行っている。義歯を利用しているご利用者は夕食後職員が洗浄剤を使用して洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの入り口に「トイレ」と表示、出来るだけトイレにて用を済ませるよう支援している。排泄をこまめに記録して、パターンをつかみトイレでパッド交換等をするよう努めている。	自立に向けトイレ誘導を促し、排泄できるように支援に努めている。個々の様子を記録に残し共有している。利用者がわかるようにトイレ表示をしている。便秘に心がけ乳製品や食物繊維を摂取、運動を行う。便秘対策に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取を多めにしたり、食物繊維の多い食物や乳製品を食材に選んで調理するよう心掛けている。便秘が進んでしまった時は主治医に報告指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴嫌いのご利用者でも週に2回は入浴していただいている。時間等も出来るだけご利用者の記号に沿って対応している。	本人の生活習慣や希望に合わせて週2回の入浴を行っている。嫌いな利用者にも言葉がけの対応や工夫で安心して入っていただく。清潔保持や体調改善に繋がる。くつろいだ気分で入浴が出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者が安眠出来るよう夜勤者は気配りを怠らない。就寝時間もその方のペースにて対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬・与薬忘れ防止のため、服薬時は2名にて確認と薬チェックをしている。服薬を拒むご利用者は薬剤師と相談、形状を変えて服用している。症状に変化があった場合はユニット長・ケアマネから主治医に報告指示を仰ぐ。薬の管理はケアマネが行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みや、食器運び、塗り絵、ジグソーパズル、折り紙、新聞紙でゴミ箱づくり、ラジオ体操、草取り、散歩等個々に楽しんで行っていることを職員でサポートしている。職員も楽しんで付き合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ感染予防の観点から太海の海岸までの散歩のみだが、コロナ沈下の折は今まで通りドライブや買い物に行く予定。	海岸の散歩のみ行っている。自然をいっぱい吸収している。コロナ感染が沈下したら、地域の人たちと交流しドライブや買い物に行きたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所管理とし、各自必要な日用品等がある場合は職員が購入している。外出が可能になった場合はご本人がお金を所持し買い物をして頂きたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応が可能なご利用者には家族からの電話取次、家族への電話接続対応をしている。手紙についても事務所対応で本人家族間で確実にやり取りできるよう仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中過ごされることが多いホール・食堂等はこまめに清掃、消毒を行っている。ホールには季節を感じさせる装飾を施す等工夫をしている。	共用空間には季節を感じる花や飾り物、ペラダにはお花がいっぱい置いてある。テーブルは消毒し透明なフェンスを使用してコロナ対策に努めている。利用者はゲームやトランプなどを楽しんでいる。ソファで寛ぐ利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での席は決まっているが、椅子には各自の好みの座布団等を置いている。ホールはソファや肘掛け椅子が用意されており、パズルやカードゲームの際に使用する学生机を2台設置し、トランプに興じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は全てご本人やご家族に用意して頂いたものを設置、ご自宅で過ごしていたような空間を演出している。但し安全性等に抵触するようなものは持ち帰って頂いている。	自宅で過ごしているような部屋作りを心掛けている。好みの家具やベッド等を置き過ごしやすい工夫をしている。馴染みの物を用意し、自宅との環境のギャップを感じさせない工夫をしている。安心・安全な居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の身体レベルを考慮した家具の配置やベッドの選定を行い、ご本人の能力を出来るだけ活かせるように努めている。手すりや安全バーの設置などご利用者が安全に移動できるよう環境づくりを心掛けている。		